

第5回資源管理方針に関する検討会（スルメイカ全系群）

資料4（P2、P4抜粋）

冬季発生系群：近年の低加入を踏まえた管理目標及び将来予測の試算結果

- 令和5年度資源評価に基づいた試算の結果のまとめは以下のとおり。
- 低加入の期間のみのデータを使用して算出したMSYを実現する親魚資源量を当面の管理の目標とした場合、①現状(2022漁期)の親魚量が目標を上回ることから、②管理1年目のABCは現状よりも大きくなり、③現状より親魚量を増やせないことになる。

パターン	目標管理基準値案(万トン)	2022漁期親魚量(万トン)	5年後の親魚量(万トン)	10年後の親魚量(万トン)	管理目標を満たす最大の β	管理1年目ABC(万トン)	2023漁期ABC(万トン)
パターン1（全期間のデータを使用した再生産関係に基づく目標管理基準値及び将来予測）	25.9	5.6	27.0	33.9	0.60	0.5	0.5
パターン2（全期間のデータを使用した再生産関係に基づく目標管理基準値、近年の低加入を反映した将来予測）【研究機関が提案】	25.9	5.6	16.8	30.4	0.10	0.1	0.5
パターン3（低加入の期間のみのデータを使用した再生産関係に基づく目標管理基準値及び将来予測【水産庁の依頼による試算】）	①4.9	5.6	6.9	③7.0	0.55	4.0	②0.5

2

秋季発生系群：近年の低加入を踏まえた管理目標及び将来予測の試算結果

- 令和5年度資源評価に基づいた試算の結果のまとめは以下のとおり。
- 低加入の期間のみのデータを使用して算出したMSYを実現する親魚資源量を当面の管理の目標とした場合、①現状(2022漁期)の親魚量が目標を大幅に上回ることから、②管理1年目のABCは現状よりも大きくなり、③現状より親魚量を増やせず、むしろ減らすことになる。

パターン	目標管理基準値案(万トン)	2022漁期親魚量(万トン)	5年後の親魚量(万トン)	10年後の親魚量(万トン)	管理目標を満たす最大の β	管理1年目ABC(万トン)	2023漁期ABC(万トン)
パターン1（全期間のデータを使用した再生産関係に基づく目標管理基準値及び将来予測）	25.3	19.4	28.9	29.5	0.75	7.6	5.8※
パターン2（全期間のデータを使用した再生産関係に基づく目標管理基準値、近年の低加入を反映した将来予測）【研究機関が提案】	25.3	19.4	22.1	31.0	0.55	4.8	5.8※
パターン3（低加入の期間のみのデータを使用した再生産関係に基づく目標管理基準値及び将来予測【水産庁の依頼による試算】）	①12.7	19.4	14.4	③14.2	0.80	9.7	②5.8※

※2022年度評価に基づき、漁獲量3年間（2022～2024年漁期）一定とする方策で再度将来予測を行った結果、 $\beta=0.25$ 、2022～2024年漁期のABCは5.8万トンとなった（2023年12月22日公表資源評価）。

4